

キャンパスから
貧困と軍事研究なくそう!

改憲とめる大学ストをやるう!

8.30~31 全学連大会

全学連 第78回 定期全国大会

8月30日(水)~31日(木) ※30日は10時開会

浜町区民館(東京都中央区日本橋浜町3-37-1) / 参加費1000円(2日間)



都営新宿線
浜町駅
A2出口から
徒歩5分

ZENGAKUREN

全日本学生自治会総連合 (斎藤郁真委員長)

【メール】 mail_cn001@zengakuren.jp

【HP】 <http://www.zengakuren.jp/>

【電話】 03-3651-4861



全学連大会への参加を呼びかけます

2017年7月20日 全学連中央執行委員会(委員長・斎藤郁真)

いま大学はますます「就職予備校」「人材工場」への道を進み、学問の本義を省みず、多くの学生から未来を奪う場となっています。「森友・加計学園問題」は、このような教育政策が生み出した腐敗の象徴です。この現実に向き合うために、学生は団結した組織的力を持とう。

学生が団結できない状況下で、大学が抱える多くの問題は深刻さを増しています。たとえば奨学金と学費高騰。労働条件悪化で貧困が拡大する中、学生の貧困も拡大しています。学費はこの40年ほどで私立で3倍、国立で30倍近くにはね上がり、多くの学生が奨学金に頼らざるをえません。無利子奨学金のほとんどの条件は「成績優秀であること」。貧困な学生ほどバイトに励み、様々な節約に時間を割き、「成績優秀」の条件は高い壁です。奨学金制度すら教育機会に格差をつくっています。学生が団結しなければ、奨学金をめぐる不毛な競争や、そもそも学費が高騰していく流れに抵抗することは困難です。

たとえば就活とスキル競争。学生は資格学校や単位、GPAに時間・余裕を奪われる。「100人に1人の資格」は市場価値が高く、誰もが持っている資格の市場価値は低いので、すべての学生が「スキル」を求めた結果、すべての学生が自分を安売りすることになる。賞賛されるべき努力が自分と仲間の価値を低め、安売りされた労働力を使いつぶすブラック企業を生み、誰も幸せにならない。学生を団結できなくすることで、この不毛なサイクルは強化されます。

これで「未来に希望を持て」というのはムチャです。闘うためには団結が必要です。

1980年代から始まり、2000年以降本格化した「大学改革」の実態は、「大学の企業化(私物化)」でした。それは大学の現場で、学生・教職員から団結するための権利と機会を奪いました。教育が企業のようにカネ・コネで動かされる中、戦後初めて大学で軍事研究が公然と始まりました。

全学連はこの流れに抗し、全国大学で闘ってきました。2006年以降、法政大学によって100人をこえる逮捕者、13人もの停学・退学処分者を出されながらも闘いを続けています。京都大学の仲間たちは2015年10月、「戦争反対・軍事研究協力拒否」を訴えて大学ストライキを取行。京大はストを主催した4学生に「無期停学」処分を下しましたが、新たな世代が自治会執行部に選出されています。沖縄大学では日本最悪の貧困と「基地・戦争の島」という現実に向き合っている学生自治会が奮闘しています。広島大学や東北大学、富山大学でも挑戦を続けています。

現場から私たちを取り巻く常識を変える——この運動をもっと強く広くしていきたい。そのために全国から学生が集まって討論・交流する場が全学連大会です。

状況は変わりつつあります。さる東京都議選では、カネまみれの腐敗と強権政治への怒りが爆発し、自民党は惨敗しました。安倍政権は焦り、スケジュールを早めて2018年中の改憲を狙っています。政治を奪われた大学と対決し、キャンパスから行動を始めよう。古くて新しい「団結」という常識を、大会の場からつくり出そう。ともに闘い、社会を変え、ともに生きよう！

「全学連大会」とは？……全日本学生自治会総連合(全学連)は、戦後間もない1948年に発足しました。戦前の大学が侵略戦争に協力し、学生を戦地にかり出した(＝学徒動員)反省の上に生まれました。◆学生自治会とは、学生の生活と権利を守るための団結体です。全学連は一貫して、戦争に反対し、学生自治・寮自治・サークル自治を守るために活動してきました。◆毎年1回、全国の学生が集まる「全学連大会」では、お互いの実践を持ち寄って討論・交流し、団結を深めています。